

ロボティクスマーケティング

所属:トランスコスモス株式会社 名前:岡崎 大地 Mail:okazaki.daichi1@trans-cosmos.co.jp

背景と課題

背景: 2012年に政府がロボットの市場規模を拡大させるべく、「ロボット新戦略」を策定し、2035年までに9.7兆円へと成長させることを目標としている。

課題: サービス用ロボットを、現場で活用する上での課題として、どのように利用すればエンドユーザーの要求満たせるのか、また導入による費用対効果が見込めるのかが不明といった声があがっている。

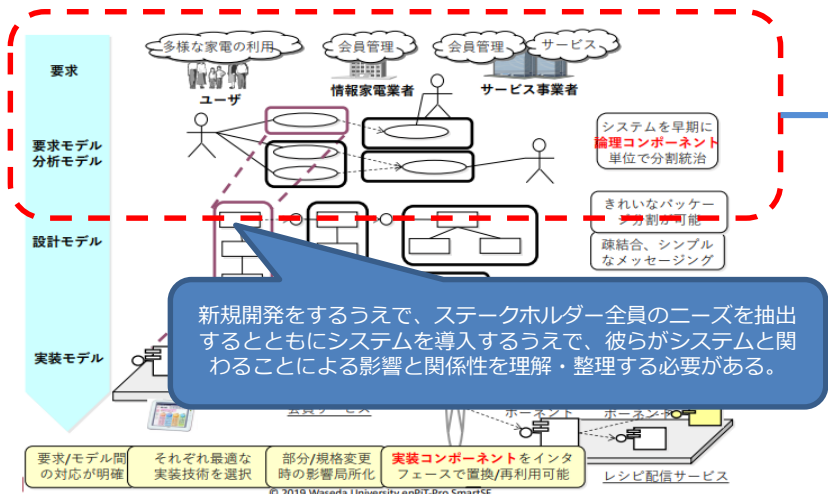
手法・ツールの適用による要求分析

スマートエスイーで取得した複数の学術手法をサービスを開発する企業や利用するエンドユーザーの視点からつなぎ合わせ適用することにより、組織のゴールやビジネスニーズ達成への戦略、導入の利点などを特定することが可能。

- ① 企業の要求抽出 : BABOK
- ② 要求の整合性 : GQM+Strategies
- ③ 要求優先順位付け : ADD

ステークホルダーの要求抽出・ゴールと戦略特定 / 機能分解

スマートエスイーで取得した学術手法を、つなぎ合わせ適用する構成イメージ図



出典: 「スマートエスイー K7 アーキテクチャ・品質エンジニアリング講義」

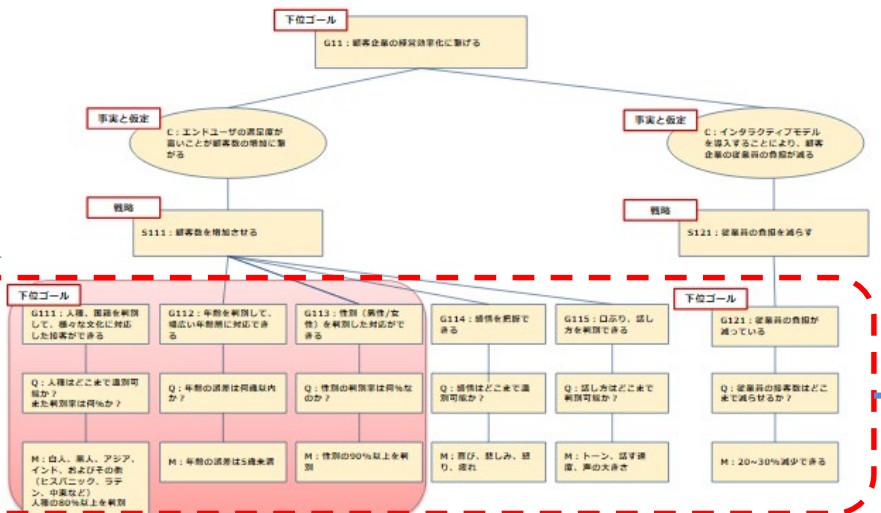
① 企業とエンドユーザーの要求の抽出

BABOKによりビジネス要求とステークホルダー要求特定
※ 小売や観光などの接客サービスが必要な業界を想定

ステークホルダー	企業	従業員	エンドユーザ
ビジネス要求	インタラクティブに会話できるモデルを導入し、経営効率化をしたい データを利用して違うビジネスに活用したい	業務の負担を減らしたい	
ステークホルダー要求	エンドユーザーの満足度を向上させたい 従業員の負担を減らしたい	エンドユーザーの満足度を向上させたい	インタラクティブにAIと会話をしたい 精度を高めてほしい

② 要求の整合性・影響を整理

- ・ GQM + Strategiesにより要求の整合性を確認
- ・ ゴールと戦略特定 / 戦略達成に必要な機能の分解



③ 要求の優先順位付け

機能 / 品質要件に優先順位付けをし、アジャイルに開発を進めることで、より洗練されたシステム開発が可能

